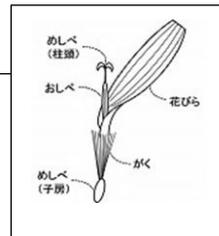




**たんぽぽはとても強い花。コロナ禍にも負けず咲きます。第8号発行致します！**

コロナウイルスの蔓延による影響が世の中に猛威を振るいました。長い自粛生活や休校。感染することへの不安、自宅待機、仕事や家庭への影響、物資の不足。。。一言では表せない大変さがあったと思います。皆様ひとりひとりの自粛生活と、大変さを想います。でもタンポポはとても強い花。踏まれても、ひっこ抜かれても、見た目が小さなか弱い花でも、ゴボウのような太い根っこが深〜く張っているから、またすぐ咲くのさそうです。

タンポポの花は小さい花が100~200個くらい集まってあの丸い形になっています。1枚1枚の花びらに見えるものは、実は1個ずつが5枚の花びらがくっついて出来たひとつの花。「舌状花」と言います。200の命が集まって、丸いひとつの命を生きています。



ひとつひとつの花が集まって、協力して大きな花にしていること！寒さに負けず、力強くどんな土地にもはえ、毎年春になったら花を開き、みんなに愛され心がなごむ多年草であること！忍耐、愛、平和、情熱、努力、絶えることがない。風によって仲間をふやすこと！地球のいたるところに育ち、目立つわけではないこと！もっともっと仲間をふやして僕たちの子どもだけでなく 他の児も素敵に暮らせるようにしましょう。

「Hokkaido Tanpopoとは.. 何か?」Tommo vol.3-1 2012.3.31 発行より

環境が悪くて光が当たらなくても、諦めずどこまでも待つ強いタンポポ。あの大きな震災の後わずか2か月で海辺に咲いていたタンポポが忘れられません。このたびの総会での高橋先生のお話を、高橋先生が改めて原稿としてまとめてくださいました！「コロナ禍」という暗い言葉に負けず、高橋先生の「言力」で、会員の皆さまの元気と免疫力がアップするといいなという願いをこめつつ、たんぽぽ魂を込めて第8号開始いたします！

## 2020年度前半の活動報告

6月21日(土)

通常総会

手稲区民センター

6月21日(土)手稲区民センター第1、2会議室で、13:00~「NPO法人ほっかいどうタンポポの2020年度定期総会」が開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大を配慮し、書面議決や委任でのご参加をおすすめさせていただきました結果、会員総数95名中、78名(当日出席11名、委任状26名、書面評決41名)の出席で開催されています。

高橋義男理事長が議長に選任され、議案書のすべての議案が承認されました。なお、書面評決の41名においても、全ての議案が承認されていました。

議事については、「2020年度定例総会 議事録」をご参照ください。次ページに定款変更に関して補足説明を掲載しています。

準備、ご参加下さった皆さん。書面議決、委任にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

対馬さん(副理事長)より

総会后、義男先生よりお話がありました。久しぶりの先生の話は、この会の大切さを改めて認識させてくれました。先生の歴史、私たちそれぞれの家族の歴史があって、今のタンポポがあります。「みんなは奇跡(キセキ)を作り出す機会を与えられた」これからも、タンポポに集い、重たい荷物を降ろさず、寄り添って歩いて行きましょう。



先生のお話は3ページ目！





## 定款の変更に関する補足説明



定款とは NPO 法人の目的と内部組織、活動内容などについての基本事項が記載された文書です。理事会では、法人の立ち上げから従前の活動と今後のタンポポの方向性についてたくさん議論を重ねてきました。その中で、法人になってもこれまでの活動方針は不変であること。水泳療育はタンポポの原点であり、それは本人と家族と一緒に他の会員と助け合いながら、障がいのある子どもたちの能力を高め、それを支える親や社会の意識を変えながら、子どもたちの社会参加を促していくものであることなどを確認してきています。そんな視点から、法人の基本を示す文言を、より適切に修正した、というのが今回の定款変更の趣旨です。

### 第3条（目的）について

前身のほっかいどうタンポポ会則の目的（現定款の目的と同じ）では、「子どもが能力に見あった能力を発揮」できていない現状を改善することに重きをおいていました。20数年を経て、子どもだけでなく「家族（親）が能力を高める（あるいは意識を改める）」必要があることから変更を提案しました。

### 第5条（事業）のうち、水泳療育について

会の趣旨に賛同して正会員として登録し、親も一緒にプールに入って活動することを基本とし、既存のスイミング教室とは違うことを明確にしました。

なお、定款の変更はこれから所轄庁に申請して認可、登記となります。完了の際、また皆さんにお知らせします。

（事務局）



## 今後のイベントに関するお知らせ



### ◎水泳療育について

各支部のコロナ感染状況に合わせて徐々に始めていましたが、7月よりすべての支部で再開しています。各支部で感染対策をしっかりとよろしくお願いいたします。

### ◎水泳フェスティバルについて

今年度はコロナ感染対策として、各支部での分散開催とします。開催日は10月11日を基準として、各支部にて調整することとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

横田水泳療育部長

### ◎乗馬療育について

9月12、13日ホースフレンドファームさんを予約済みですが、現在と今後の状況により、開催の詳細がまだ決まっておりません。事務局で話し合い、またお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。



## 高橋 義男先生

この話、2012年、洞爺湖でやった話とほとんど同じです。今日はコロナで時間ないので次回、三密できるようになったらもう一度します。三回目、楽しみにして。

30 数年前から積極的な近代型の小児脳神経外科が始まった。その前あったけど私から始まった(オッー！笑)。北海道立小児総合保健センターは既にあったがかなり遅れていた。昔、小児の医療状況は悪く、いま30歳、40歳以上の障がいの患者さんの多くは軽症の子どもたちで、重症だった人はほとんど助かっている。重度であれば治療しない、できない時代だった。そんな中治療(外科手術など)に挑戦してきた。だから重症で助かっている子どもが増えたが、そのままでは生きていくだけで終わると義男くんは考えて、みんなで能力を引き出し、生きぬく力を付けることにした。どんなに重症であってもみんなで努力すれば必ず社会貢献する日が来ると、タンポポの活動を一緒にしてきた。その結果は見えてきている。こんな活動に親たちは感謝するけど、子どもたちはわからないから感謝なし(笑)。今は医学の進歩もあって、助かる人が増えているが本来の治療ではなく、世の中金づくりで現実には未だなお重症の子どもは気管切開や胃瘻がされて生きてはいるが能力を出せていない。ほっかいどうタンポポの方向はこれとは全く異なる。“みんな同じ人間だべや” 体育館型能動的展開。不可能を可能にするには自分の努力も必要だが、周囲のみんなで行っていくことがとても大事、その中で解決が生まれてくる。ほっかいどうタンポポは家族の力を大事にした。

で、リハビリテーション。ここで大事なものは、周囲の人々、特に「親」がどう考えていくかということが重要。手術は一つのきっかけであって、実際は親を含めたみんな(チーム)のちからで、社会のなかに出ていく能力をつけていく。これが大事。社会適応能力という。

小児科とか療育の現場のリハビリは間違い(いうんでないよ 笑)で、身体が硬くならないようになることが大事な訳でなく、「社会適応能力をつけていくこと」が大事。ほっかいどうタンポポの療育は子どもと遊び、子どもに学んで社会に入る。

ここにいる剛にも、くりかえし大事だぞと言ってきたが、「自分の考えていることを意見として言える」ということ、そして「相手の考えていることがわかる」ということ、これらの能力をつけることが一番大事だということでやってきた。普通のリハビリもしたが、タンポポでの経験たくさんしたからかなり力ついたし、いまそれで得た能力でみんなに恩返し始めようとしてる(笑)。不可能を可能にするにはチームのちからが大事。

そして本人も、努力を通してやっていく。努力を続けることで「動かない山もうごくさ」ということ。まだ過程にすぎないかもしれないが、剛をはじめみんなが、自分たちの経験を世の中で発信して、自分たちとその仲間と展開していくこと。出来ないんだから仕方ないしょ、この人たちをわかって下さいでなくて、そんな甘いことを言う人々ほっといて、自分たちで展開できるようにしていくことだ。

もう一つは、親の意識が違ってくる。最初、心の中は「うちの子にできるはずはない」と思い込んでいたのに、子どもが頑張るすがたと達成を見ることで「うちの子すごい！」となり、「できた！もっとできる！！」「みんな同じ人間だべや」に変わっていく。

これからのほっかいどうタンポポの存在意義は「チャレンジ」。「奇跡を、誰でもできる」に。だから、剛はチャレンジして行って結果を出す。きっと出る。挑戦して結果を出す。剛君、お願いします(笑)。集団でいることを大事にして、努力を続けて行ってほしい。そして、これまで多くの子どもたちにずっと言い続けてきたこと。「皆は奇跡(キセキ)を作り出す機会を与えられた」人間なのだ。努力を続ければ、動かないもの＝山も動く。

事実は小説より奇なりと言う。事実ってのは経験とひらめきから生まれる。経験をみんなの中で生かすのが人間だ。親を含めて、人間の特徴は「集団で生きる動物」 教わって成長していく。しかしその中には「いじめ」というものもある。動物のなかで「虐待」するのは人間とチンパンジー。話が脱線した。おぼえておくのは、人間は教育でのびる。俺たちは多くの経験を持っている。だから親から子に伝えること大事。周囲も勉強。そして家族の力が大事。

おれたち仲間だ。

みんなが不可能を可能に、みんなが奇跡を創るのを体験できるように。それをみれるように。今 71 歳だからね。これからもよろしくお願いします。わかるね剛(笑)。今日はお前と裕大、少し遅れてきた綾子と 3 人しかいないから大変だ(笑)。

最近 SDGs(持続可能な開発目標)とか言っているが、ほっかいどうタンポポは 1993 年からすでにやってきたこと。私たちがやってきたことは、みんなでもちつもたれつ絶対に「誰も置き去りにしない」ということ。みんなで考えたらわかるべや、ってこと。そして行く道をつくったけど、まだ出来てない。本当は 2020 年に出来てるはずだった。洞爺でもいった(笑)。去年もそうだったけど余計ないらないことが多すぎ、余計な停滞(笑)。道草というか寄り道多すぎ。だけどあとで考えればどっちも為になる。

今の時代は終わってる。ちょうどいい機会だったんだよ、コロナは。人間の傲慢さや欲で未知の扉(人間滅亡)開いちゃったんでないの。人間の分相応って、最近もめる言葉だけど、分相応に生きてりゃよかったのにね。色んな新発見は何のためになったんだ。考えてみよう。フェイス to フェイスがスマホ to スマホ。思考停止で脳崩壊。人間は集団で生きる動物、みんなで不可能を可能へ「原点回帰」それタンポポでいけませ。

“いけませ”の歌にもあるが、親御さんにも本人にも肩に大きな荷物を背負わせる、手に持たせる。そしたら力ついて成長する。大きな荷物もおろさず進む。そうやって来たし、これからもやってくからね。大きな荷物は大人になった時にはみんなのだからものになってる。高橋義男くんに出会ってよかったこと！奇跡づくりが体験できる！！反対の人はいますか？(笑) 頑張ろう！みんな誰も置き去りにしないで、小さな幸せをちゃんと守れるような社会を作ろう！

“みんな同じ人間だべや” またね・・・

よしお先生、ありがとうございます！

(お話・文章：高橋 義男先生 )



## 事務局よりお知らせ

今年度会費未納の方は、8月末までにゆうちょ口座 **02780-7-50275** へ送金をお願いします。

### 住所変更の際は事務局にお知らせください

郵便物が返送されることがあります。  
転居された方は新住所を連絡願います。

連絡先：

事務局 富樫勝([togamasa@icloud.com](mailto:togamasa@icloud.com))

周りに郵便物が届かない方がありましたら、ご連絡ください。よろしく願います。

### たんぽぽホームページの QRコードです！

会員さんでHPを持っている  
方がいらっしゃいましたら、  
ぜひリンクをよろしく  
お願いいたします！



## 赤い羽根共同募金



ほっかいどうタンポポは共同募金会からの助成を受けている団体です

## 編集後記

ちなみにタンポポは肥料をしっかりあげると直径1mまで育つそうです！どなたかお試しになりませんか？

ご意見・ご感想・ご希望・お子様の作品 etc... 皆さんのお便りをお寄せください！

宛先は 梅原 [mari.maki.h1871@gmail.com](mailto:mari.maki.h1871@gmail.com) まで

タンポポだより No.8：2020(令和2年) 7月17日発行 編集：梅原 麻紀 ☎/Fax 011-753-0636

発行責任者：高橋 義男 情報編集局 発行：NPO法人 ほっかいどうタンポポ